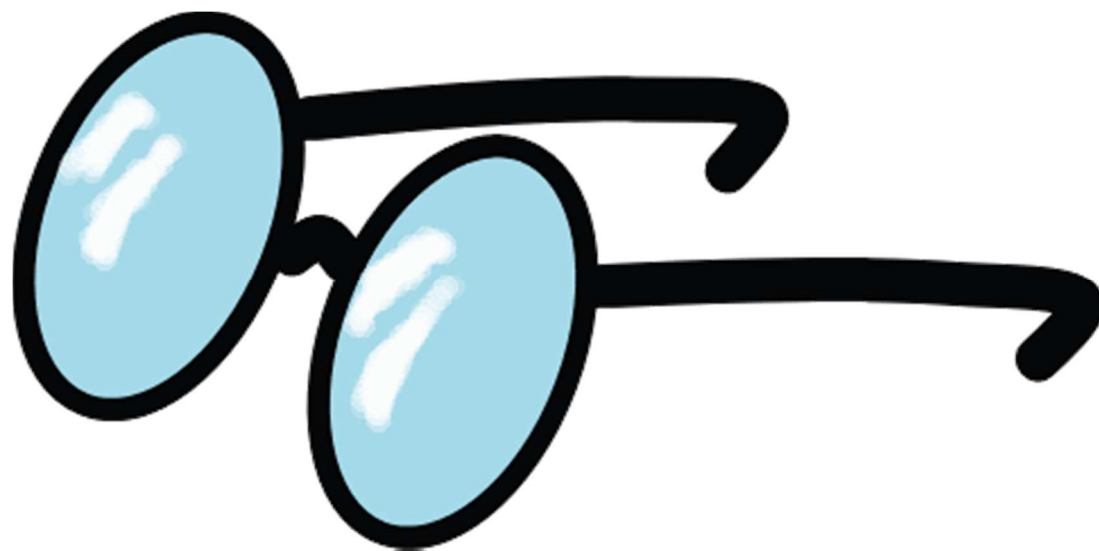


魔法のめがね



東郷 潤

あるところに、とっても真面目な男の子がいました。毎日、一生懸命、お祈りをしています。



神様、どうか何が良いことで、
何が悪いことなのか、
教えてください



そこへ天使が、現れました。



あなたは、本当に善悪を知りたいの？

はい。
僕は、いつも良いことと悪いことを
間違えて、叱られちゃうんです。

良い人と悪い人を、ちゃんと区別
することも出来ません。



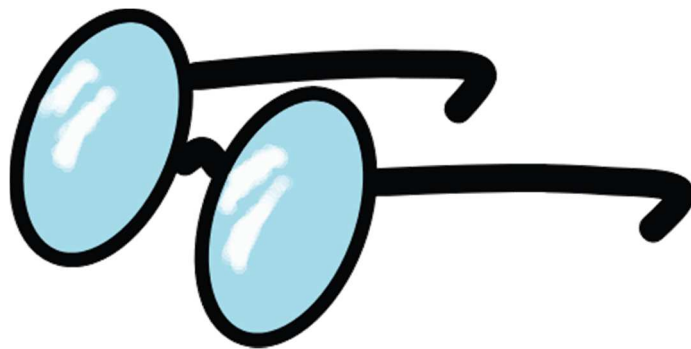
男の子は、一生懸命、頼みました。

仕方ないわね。天使はため息をついて言いました。

どうしても、というのなら、
魔法のめがねを
あげましょう。
このめがねをすると
全ての善悪が分かります。
本当は気が進まないのだけど…



天使は、善悪のメガネを
くれました。¹



¹ [注] 製本版の「魔法のメガネ」ではメガネはどこからともなく現れる、と改訂しています。

嫌になったら、いつでも外してね。
でも、ひとつ忘れないで。
一度このメガネをすると外すのは
簡単じゃないのですよ。
大きな大きな愛と勇気が必要になるのです。

本当に、それでも良いの？
あなたには愛と勇気があるの？



もちろんです！

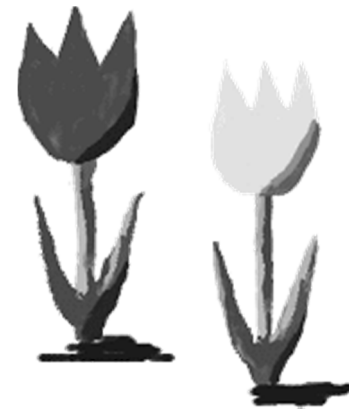


それ以上は、何も言わず、天使は天に上っていきました。



しずくが一つ、ポツンと落ちてきました。雨？ まさか天使の涙じゃないでしょう…

さあ、メガネをしてみました。これでもう、全ての善悪が分かるのです。

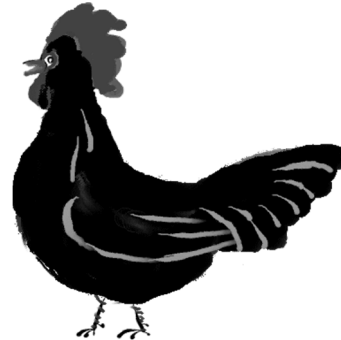


あれれれ、景色が白黒になっちゃいました！！ わあ、面白い！ もっといろいろ見てみよう！

この白い動物は、・・・ああ、きっと犬ですね？ この黒い動物は豚かしら？



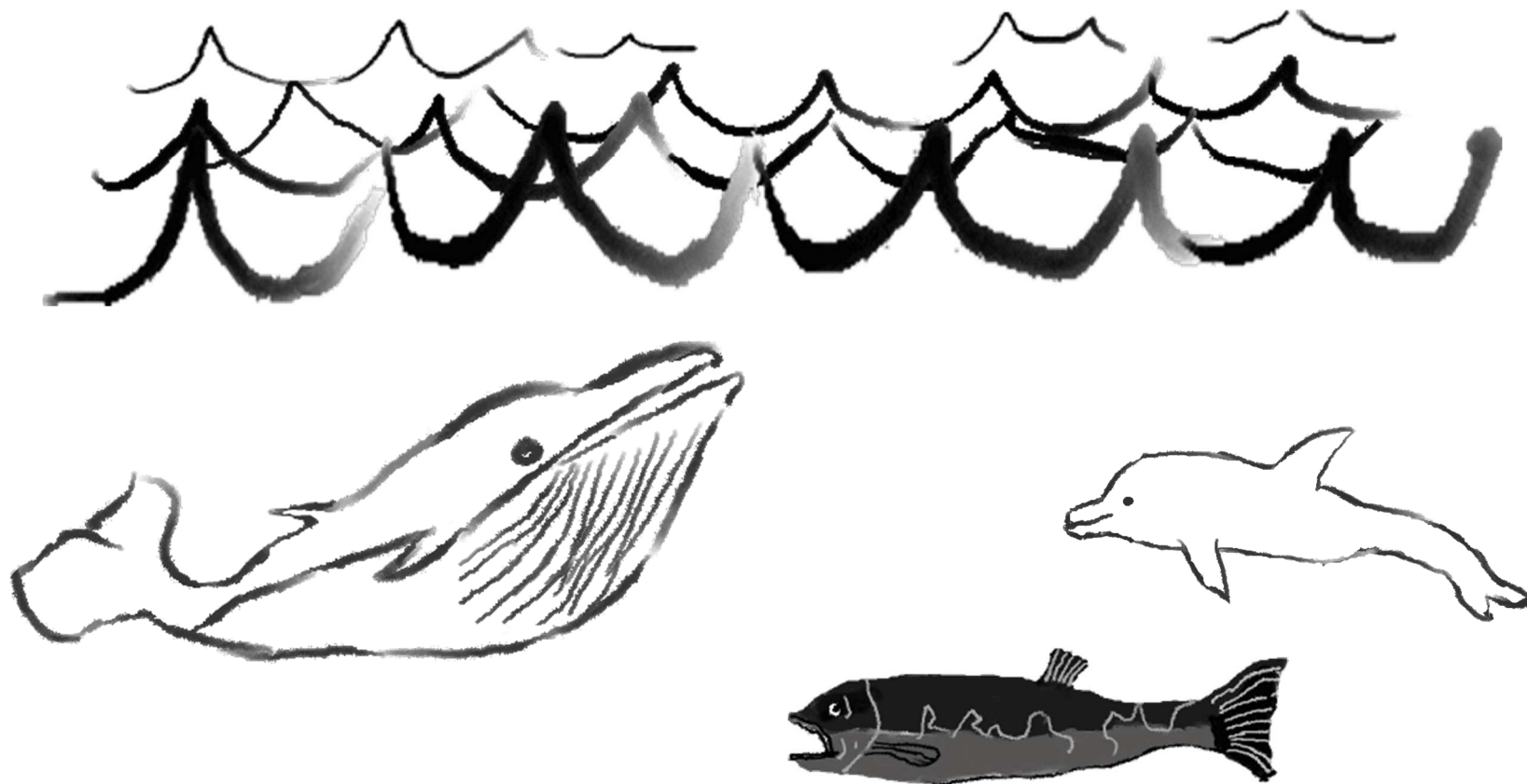
この白い鳥はインコ？ 黒いのは、鶏ですね。



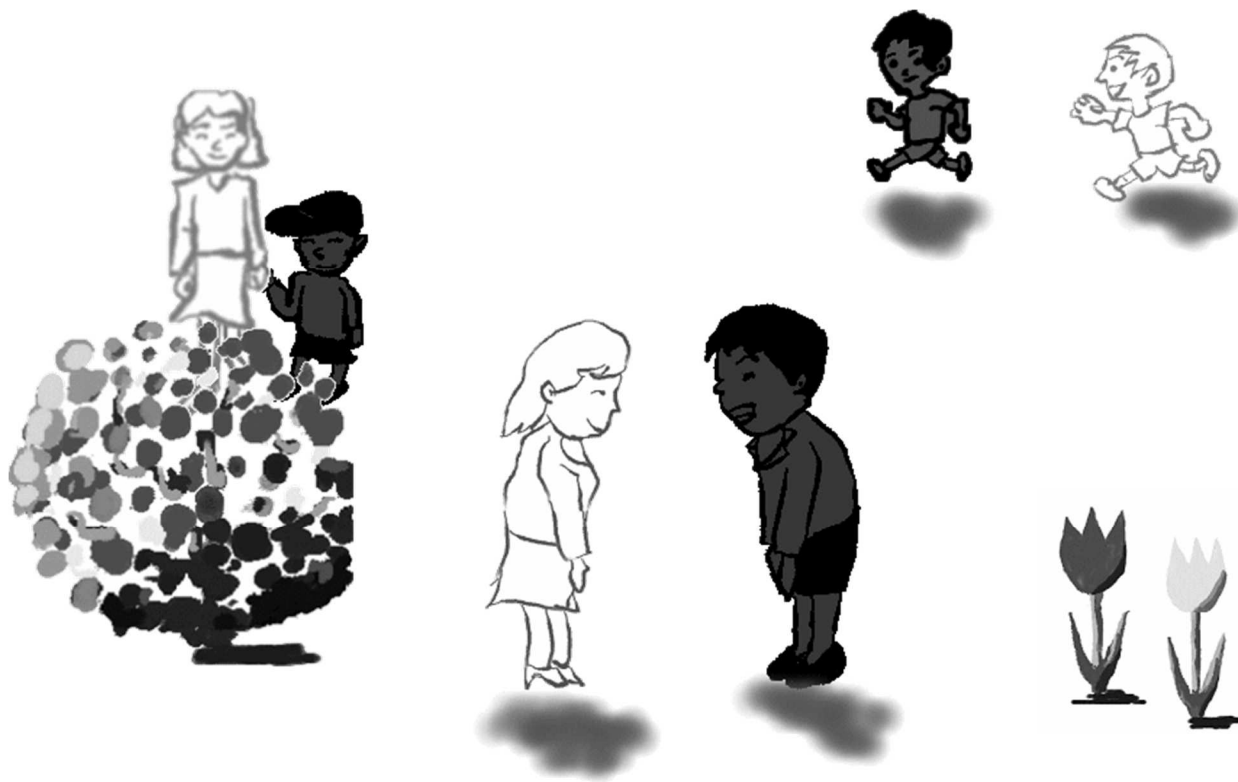
ああ、これはきっと白い生き物は食べてはいけないということなのですね。つまり、鶏を食べるのは良いけど、インコを食べるのは悪なんですね。²

² ●この絵本の中に示されている善悪の基準は一つの例としてお考え下さい。当方で何か善だ／悪だと主張するものでは一切ありません。●製本版では豚は登場しません。モスリムの方々など、豚を食べることをタブーとする文化へ配慮したものです。

海の生き物も白と黒に分かれます。白は、・・・ああ、いるかさん。あの大きいのは鯨さんですね。黒いのは、・・・きっとサケですね。そっか。サケは食べても良いけど、鯨を食べたら悪なのかな？



人々も、全員、白と黒。一さあ、下の絵のように黒く見える人、これはもちろん悪人でしょう。白く見える人は、正義の味方の良い人ですね！³



³ (注) 人の肌の色／人種とは一切無関係です。念のため。



こら！ お前は悪人だな！



なんで、君はそんなひどい
ことを言うんだい？



それを見ていた白い人がいました。

その人は、メガネをしていません。悪い人が分からないようです。

君には誰が悪い人で、
誰が良いのか、
分からないんだね。

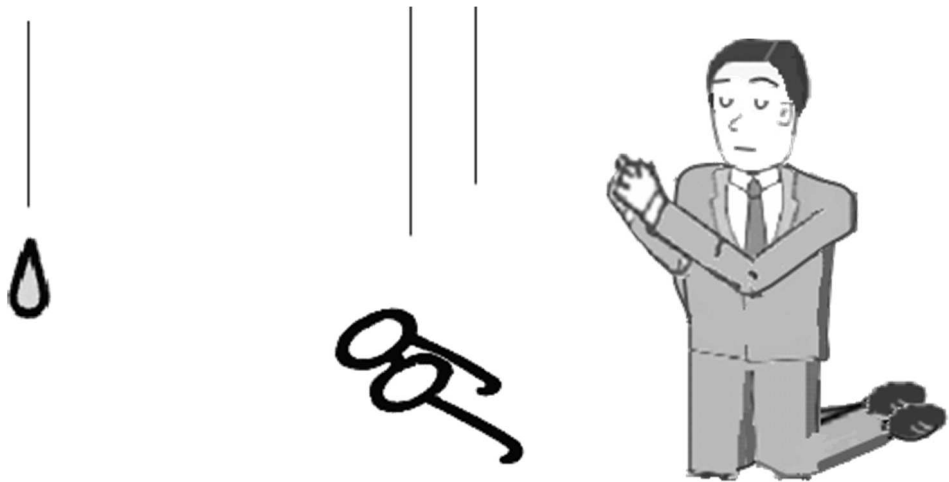
え？ じ、実はそうなんだ。
それで僕は悩んでいたんだ。





なら、祈ってご覧。
善悪が分かるようになりたいって。
そしたら、天使が願いをかなえてくれるよ

その人が心をこめて祈ると、メガネが雨のしずくと一緒に、空から降ってきました。⁴



⁴ (注) 製本版では、メガネは空や天使とは無関係に「どこからともなく現れる」と改訂しています。

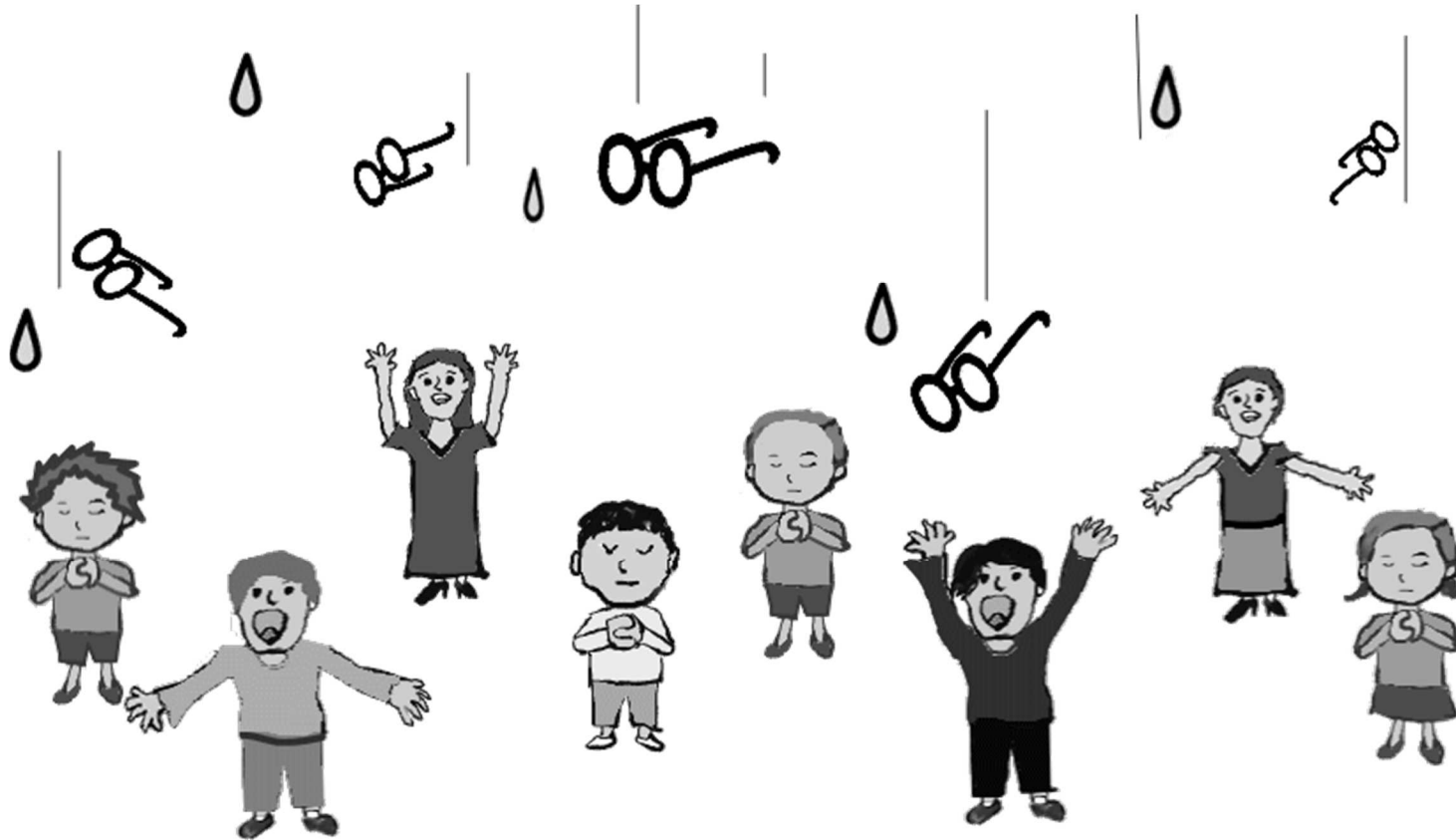
その人も、メガネをしました。

ああ、本当だ。
全ての善悪がはっきりと分かるぞ。
僕は危うく、悪い人の味方になるところだった。
ありがとう！



その人はとても喜んでくれました。

たくさんの方が善悪のメガネを欲しがりました。



祈った人全員に、善悪のメガネが空から⁵降ってきました。雨も少し、降っています

⁵ (注) 製本版では、メガネはどこからともなく現れると改訂しています。

でも・・・、善悪のメガネをしていると、白と黒しか見えません。

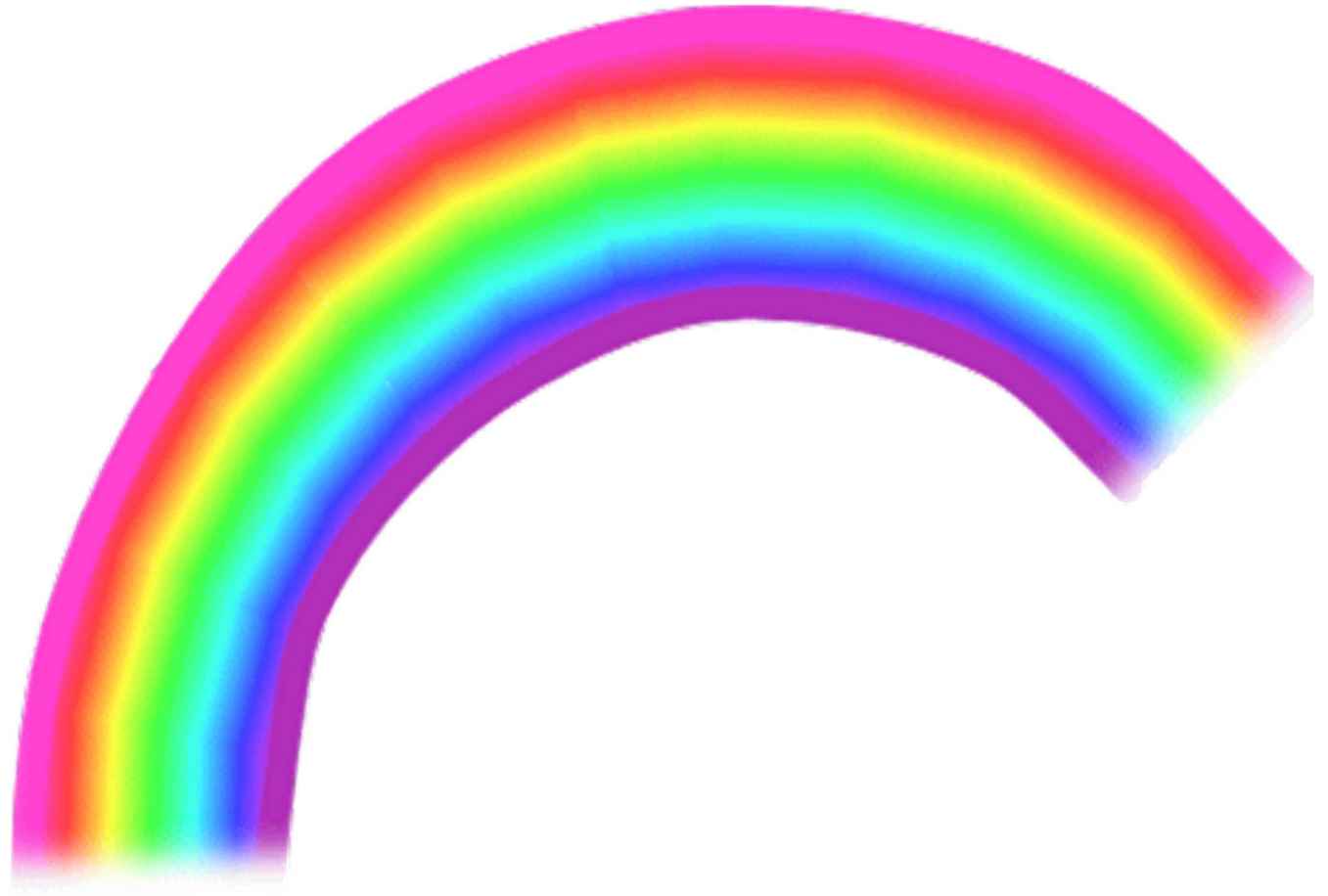
それはとても退屈でした。だって、花の色も、空の青さも、木の緑も見えないのですから。



そこで、めがねを外してみました。

ちょっと善悪を忘れて、美しい世界を見たくなったんです。いつメガネを外しても良いって、天使はそうっていました。

ちょうど雨がやみ、空には虹がかかっています。



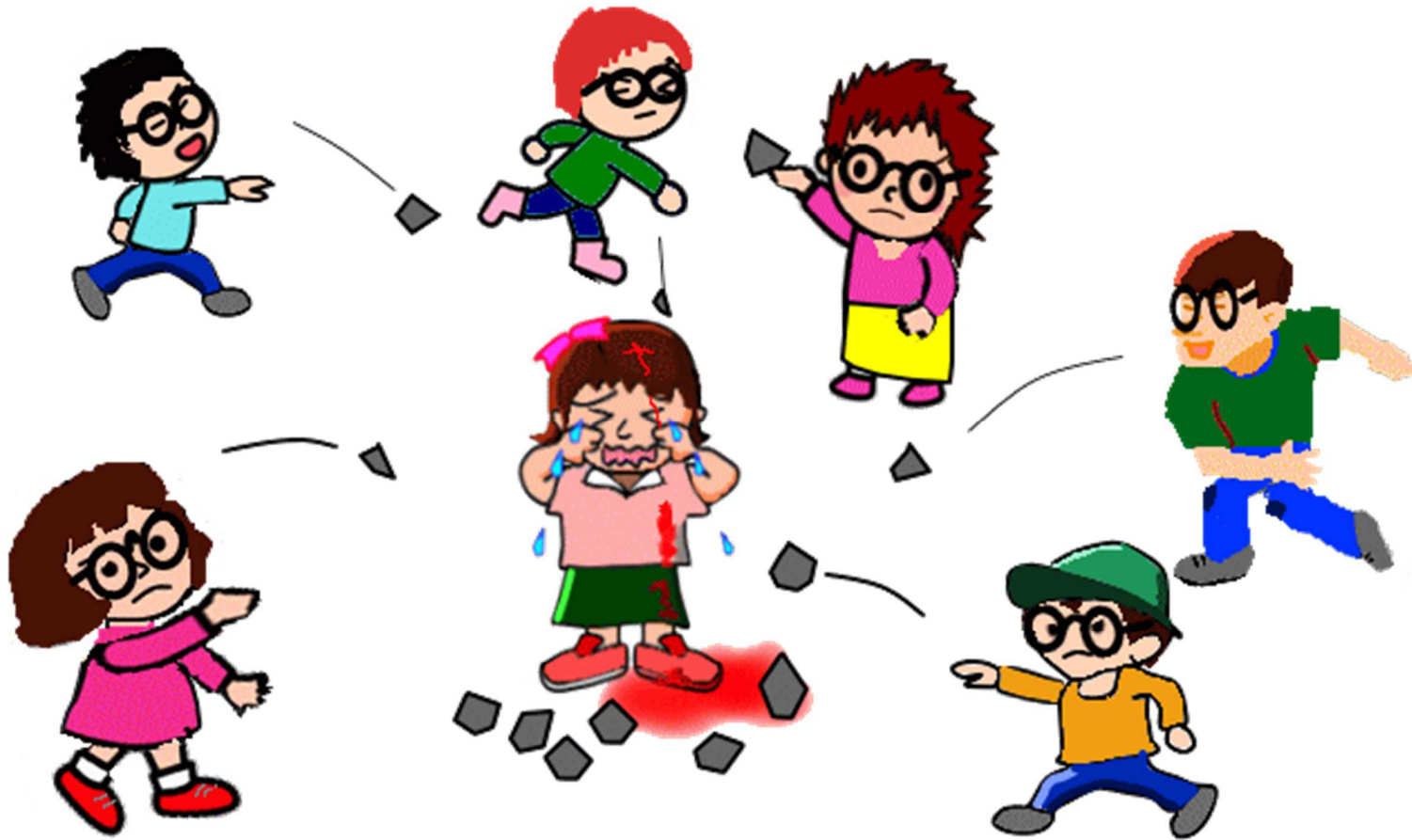
ああ、世界はなんて、美しいのでしょうか！

あれ？　これは何だろう？

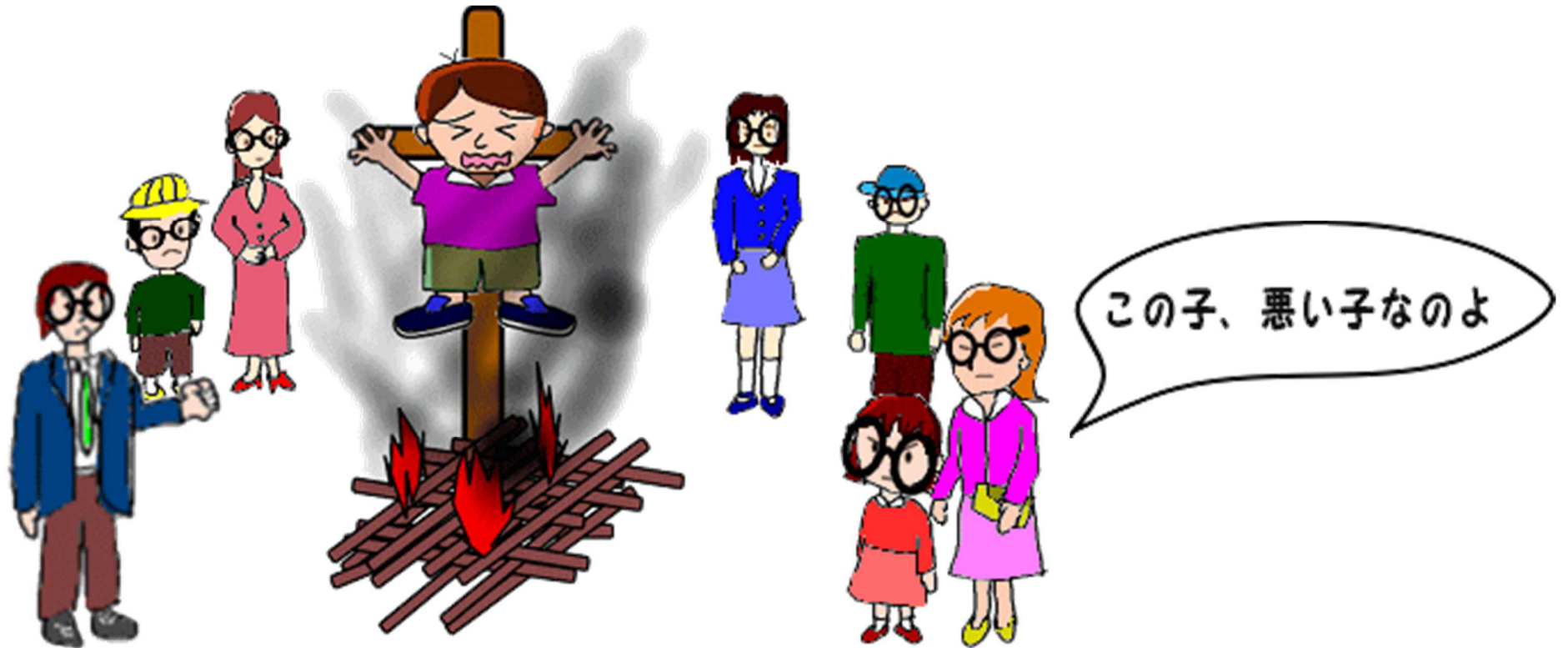
目を下に向けると、なにやら真っ赤なものがあります。



周りを見ると、善悪のメガネをかけた大勢の人たちが、一人の少女を取り囲み石を投げつけています。



その近くでは、善悪のメガネを掛けた人たちに囲まれて、少年が火あぶりにされています。



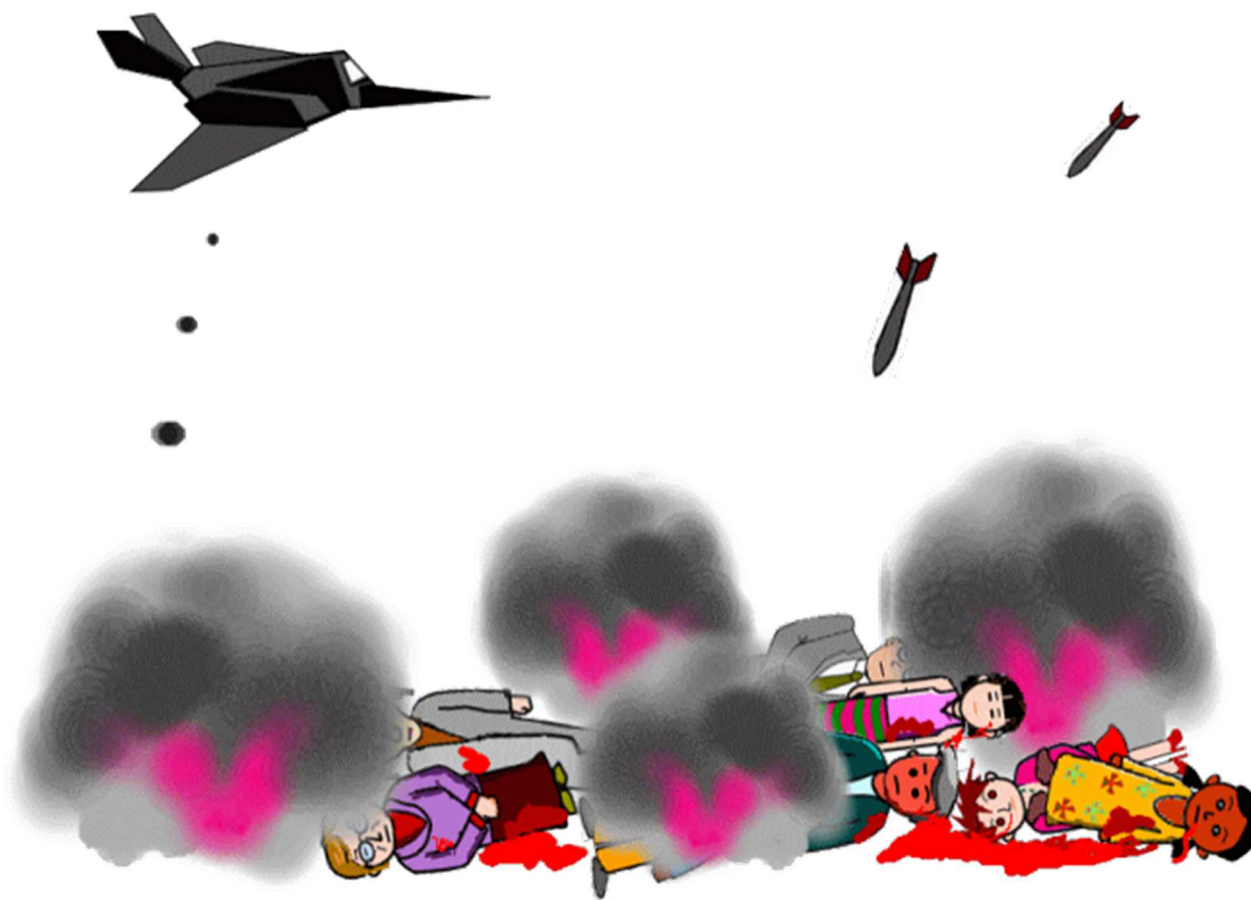
うわああああ～！



逃げようとしたら、真っ赤なもので滑りました。



真っ赤なのは人の血でした。足元に血の海が広がっています。無数の人々が死んでいます。



それは善悪のメガネを掛けた人々に悪だと思われて、殺された人たちだったのです。

メガネを掛けると、赤い血も、火も、見えなくなりました。



・・・見えなければ、忘れられます。

人を焼く火も、人が流す赤い血も、
ずうっとずう～～っと忘れていられます。



いつのまにか強い雨になりました。

あとがき —絵本「魔法のメガネ」

絵本「魔法のメガネ」は、いじめや虐殺や戦争の原因となる、善悪で錯覚する心理をテーマとしています。

善悪という考え方／言葉は、本当に様々な錯覚を生み出します。そして、それらの錯覚は恐ろしい悲劇を育む土壌となり、結果的に、億単位の人々が犠牲になっています（詳細は、下記WEBの絵本集、弊著「善悪中毒」、「原爆への復讐」をご参照ください）。

そうした悲劇を地球上から少しでも減らすことを目的に、本絵本「魔法のメガネ」を執筆しました。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2004